

会 議 録

会議の名称	第5回 杵築市行政改革推進委員会
開催日時	令和元年11月5日（火曜日） 午後1時00分から午後3時30分
開催場所	杵築市役所本庁舎 2階 第2会議室
議 題	別紙のとおり
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 ■発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>議事</p> <p>(1) 第3次行政改革大綱実施計画報告書（案）について</p> <p>(2) 事業評価報告書（案）について</p> <p>(3) その他</p>	
審 議 内 容	
<p>○総務課長：ただいまより令和元年度の第5回の杵築市行政改革推進委員会を開会する。（欠席者報告 1名欠席）</p> <p>杵築市財政の現状について</p> <p>（事務局説明）</p> <p>○委 員：2つ質問がある。行財政改革推進本部での期間的な目標と数値的な目標というのはなにがあるのか。体制はわかったが、いつまでやるのか。</p> <p>○総務課係長：緊急的なものと中長期的なものをまず分けて考えて</p>	

いる。今すぐできることは、取りまとめて12月議会にかける。早急に実施する。中長期的なものは一応3年間を目途に作ろうとしている。その中で、令和5年度が償還のピークであり、財政調整基金の残りをどれぐらいにしたら乗り越えられるかという数値的なものを今作ろうとしている。

○委員：市民の立場からすれば、3年は、すごく長いような気がする。もっと短期じゃないのかという気がする。もう廃止になるのはわかっているのか。

○総務課係長：はい。

○委員：それなら、もっとその期間を早めて、来年はこうなる、再来年はこうなるというのを見せて、その中で数値的な目標も定めていくべきである。みんなで危機意識も持った、体制もできた、じゃあもうやっついこうね、うんやろうやろうって言って、ズルズルやるってならないようにしてほしい。

○委員：今ここでやっている行革委員会と、外部有識者会議との違いが解らない。同じような感じがする。この委員会でやってそれをまた外部有識者に外から見てくださいってやっても、もうすでにやっているわけだから、そこがやっぱりわからない。

○委員：プロジェクトチームっていうのは市の内部なのか。

○総務課係長：はい。内部である。

○委員：プロジェクトチームは市の内部である。市がやっている

内部の仕事を市民の目で見てくださいという、要は、外部の人間の目で確認をしている。

○委員：この体制を見ると、すでに市の中で、市として、今のままではいけないからもっとよく改善改良していこうという動きがあって、それに対して今外部有識者がいろいろな意見を言っているわけである。それは今私たちがやっていることと同じことじゃないかなと思った。

○委員：私たちがやることと、今回の外部有識者でとやるのが重複していて、無駄じゃないかと思って。この委員会そのものが無駄になってくるのかなという気がする。

○総務課係長：無駄にはならない。外部有識者会議には緊急財政対策と次期行革大綱（案）を見てもらう予定であるので、重複はない。

○委員：そこがちょっとわからない。わかりにくい。外部有識者が、このプロジェクトチームやそれぞれのワーキンググループの成果に対して、厳しくやっていけば、同じことだと思った。そこはたぶんこれからやっていく部分でしょうから、そのときに、そういう視点で見て同じことをやっているということであれば、もうこれ止めようとかがあれば言って欲しい。やっていく中でこれはすでにこの委員会でやっていることと一緒にだとなれば、この委員会の仕事はなくそう、こっちの仕事はもっと別のことをやらそう。そういうことが出てくれば言っていただきたい。今日ここで結論が出ないかもしれないが、ただ私

としてはわかりにくい。同じことをするような気がして、せっかくお金がかかっているのだから市としてもつたいたないという。

○総務課係長：はい。私の個人的な感想ですが、今までのこの2つのこの委員会と今始まった新たな外部有識者会議で内容が重複しているという認識はない。

○委員：そうか。それならいい。

○総務課係長：委員長、副委員長は両方に出席されているので、同じだという印象をうけるかどうかお聞きしたい。

○委員長：今は、財政中心である。内容をこれから吟味していくことが必要なので、それに行政改革が絡んでくる過程でどうなるかというまた一つのステップみたいな感じがする。この委員会とは内容は違う。

○委員：違うのか。

○委員：そういう印象を1回目で持った。ただこれから確かに委員さんご指摘のように共通するところも出てくるかもしれないという予想はある。

○委員：決してだめと言っている訳ではない。わからないと思っただけである。同じことをやっているかもしれないと思った。今委員長がおっしゃるように、たぶん財政のほうからメインに言うでしょうから、行政のほうについてはむしろ、ちょっと違った視点でこちらは話をしなきゃいけないのかもしれないと、感覚的には持っている。

○総務課係長：確かに、どっちかと言うと、この委員会の視点的に

は行政だと思う。取り組み項目の中に財政があるが、財政の取り組み項目1つで各種項目の取組が集約されている。40何項目あるうちの数個かしかない。まずは財政である。

○委員：一番大事なのは、さっきの期間と目標である。

(1) 第3次行政改革大綱実施計画報告書(案)について

○委員：ここには全職員に周知と書いている。これはいいことだと思う。気になったのは、議会あるいは市民に対して、周知はしないのか。会社の場合は、所員や職員よりも株主への説明が一番大事である。そういう意味では市民に対しては、どう説明するのか。

○総務課係長：今月末には、議会に報告する予定である。また、例えば、歳入を増やすとなれば、使用料の値上げ、また、事業の中止など実際不利益を被る方が出てくる。市民には説明が必要であることは間違いなく、今後、年明けから地元説明会というような形で市民説明をすることを考えている。

○委員：もし、今後、議会やら市民に協力を得て、改善していくならば、やっぱりこの委員会としてそういう文言を入れてもいいと思う。

○委員長：今後の財政状況を全職員に周知することでとあるが、これを、今後の財政状況を全職員のみならず議会と市民に周知をするという文言にしてはどうか。

- 総務課係長：それでは、全職員のみならず議会と市民に周知することで危機感を共有する。としたいと思う。
- 委員：危機感を持ってもらいたい。
- 委員：3ページの市立病院について、基本的に独自と言ったら、支援については打ち切るということなのか。私はどちらかと言えば、市立病院に対しては、支援がなくても自分で生きていけるようにちゃんとやってほしいという気持ちである。
- 委員：この考え方は、自分一人でやれとは思っていないのか、一体どっちなのかわからない。
- 委員：支援打ち切りまで入っているという理解でいいのか。
- 総務課係長：この表現はそういう表現で書いたつもりである。
- 委員：それならいい。
- 委員：要は、応援はしながら自分で考えて自立してくださいねという意味で、最終的にはもう打ち切りである。
- 総務課係長：もちろんそうである。本当は病院が自分で考えて、自分でやっていくのがベストな状態である。
- 委員：ベスト、そういう意味か。それならもういい。
- 総務課係長：ただ、実際すぐできるかというとなかなか難しい。
- 委員：いやできない。できないと思う。私もそれは理解している。
- 委員：今、病院経営に一般会計から繰入れしているのか。
- 総務課係長：今年は黒字だったのでしていない。交付税措置されている法定の繰入れはしている。

- 委員：病院経営は、難しいと思うが、少しは経営的には向上しているのか。
- 総務課係長：今年は黒字であったが、黒字、赤字、黒字、赤字というような経営状態である。
- 委員：前回、事業評価でも市民病院の在り方検討について意見を言った。そんなのは止めて自分で考えるべきだと思っている。
- 委員：図書館は、直営でやるのは3年間と決まっているのか。
- 総務課係長：はっきり3年とは決まっていないと思う。建て替えるときの委員会で最初は直営でやっていくという方針である。
- 委員：3年は、私がたぶん言ったと思う。それは、いずれにしろ今は直営でやっていくということだと思うので、そしてたらいつまでも直営でやるというのではなく、長くともやっぱり3年ぐらいで、結論を出してくださいという意味で。3年ぐらいで結論を定めるべきだと思っている。それはそういう意味で3年ぐらいでと意見を言った。
- 総務課係長：それでは、このままでは誤解を与えるかもしれないので、表現を変える。
- 委員：変えたほうがいい。
- 委員：新図書館は直営で行うこととしているのであれば、3年とは書かずに、例えば早い段階で方針を定めるべきである。
- 総務課係長：新図書館建設検討委員会で新図書館は直営で行うこ

ととしているため、早い段階で方針を定めるべきである。という表現に変更する。

○委員：3ページ、包括支援センターの組織の見直しについて、先進的な取り組みではあると思うが、新センター開設で何をするのか。

○総務課係長：社会福祉協議会に、全世代包括支援センターを作る。そこに今の山香の包括支援センターにいる嘱託職員のほとんどを配置する予定である。

○委員：連携ができるのか。

○総務課係長：もちろん連携ができるという前提である。

○委員：山香庁舎に福祉や教育、介護保険とかがあって、杵築で全世代包括となると連携ができるのか心配である。社協の関係に全部委託するということか。

○総務課係長：そうである。当然社協も今、突然委託されてもそれを受けられる能力も人材もないので、人材は市が雇用している人が継続雇用される。事業としては、市の事業を引き継ぎながら、社協がやったほうが連携がうまくいくということのようだ。

○委員：庁議というか、市の内部で検討した結果そうなったのか。

○総務課係長：組織が変わるので、まだこの分は庁議にかけていないようだが、今から動くものと思う。

○委員：それはいつ頃からの事業なのか。

○総務課係長：来年度である。来週か再来週の庁議にもかかるかも

しれない。ただ、相手がいることなのでその辺の調整が出来てからということのようだ。

○委員：それによって市の事業の削減にはなるのか。市民サービスには影響しないのか。

○総務課係長：影響しない。よりよくしようという動きだと思う。事業を減らすなどの話しは聞いていない。

○委員：それならいいが、なんかもうあっちいけこっちいけと言われると市民にとっては、今まで出来ていたことが同じところでできなくなる。そういう利便性を考えると、どうなのかなど。

○総務課係長：利便性に関して言えば、実は、山香庁舎に福祉部門があるのは、利便性が良いとは言えない。人口規模では、杵築地域のほうが人口多いから。本来であれば、多くの市民に関わりがある福祉部門は杵築庁舎にあるべきだと、そして建築部門など業者との関りが多い部門が山香にあっていいのではないか。そういう考え方もある。

○委員：はい。わかった。

○委員：錦江橋について聞きたいが、市民の皆さんが言っているが新しい橋は、今の高さよりも低くなっているがどう取り付けるのか。今の国道をこれに下の新しい橋に合わせて削るのか。

○総務課係長：はい。今迂回路ができたが、今まで走ってきた道を下げないと、新しい橋に合わない。もともとの橋は、使い回しであそこで設計していないので高い。

- 委員：迂回路は残すのか。
- 総務課係長：壊す。臨時的だと思う。
- 委員：あれをまた崩して…なんであんな無駄遣いをするのかとみんな言っている。津波が来たら高い方がいいんじゃないかと思うけど、低いのができて驚いた。ある人は、あれ設計ミスじゃないのかと、ちょっとそれはないみたいだけど、杵築中学校でも、校舎の問題も抱えているし、橋の問題も。お金がかかるような設計をなぜするのかと言っている。
- 委員：市民は、そういうのをものすごく敏感に感じとっているわけである。素人が考えてもわかることを専門の方がなぜ考えないのかなと。
- 総務課係長：津波を考慮しても高さはあれでいいそう。ただ、だから逆にその逆転の発想が必要だったかもしれない。高さはあれでいいけど、接続が悪いから上げておこうという発想。その分事業費が上がることになるが、差額を考える。ただ、この迂回路も最初は必要ないという話での設計であったのに、急に迂回路が必要ということになったようである。
- 委員：お金がないない言う割にはお金を使わないといけないような事業をしている。

(2) 事業評価報告書(案)について

- 委員長：事業のスクラップは必須でありと書いているが、要はス

クラブは避けられない状況にありとか、ただ必須ではあると思うが。

○委員長：やむを得なく避けられない。

○総務課係長：はい。やむを得ない。その避けられないというような言い回しに変えるか。

○委員長：なんとなく感覚的な問題で申し上げたが、必須でもそれができれば、危機感があっていい。どちらでもいい。

○総務課係長：避けられないと言うと、そうするしかないというニュアンスがある。必須と言うともう結構厳しい言い方であると思う。

○委員：冷たくいかないと悪い。避けられない状態だと柔らかい。

○総務課係長：必須でよいか。

○委員長：よい。

○委員：事業評価の結果のところ、内容が悪いということではないが、②と④というのは、ある意味同じようなことを言っている。③の一番最後の思い切って事業の廃止を検討しなければならないというところも先程②の事業の取捨選択も言葉は違うけれども言っている内容は一緒。要はお金を落とすということを行っている。

○総務課係長：はい。

○委員：それと、それよりも先ほど冒頭に説明があった、ワーキンググループ等の取組から言えば、本当ならばこの行政改革推進委員会からも意見を言うべきなのではないか。

この評価内容は、こうすべきである、こうしたらどうだという平静的な発言である。それから今100.9%の経常収支を黒にするためには、収支を2億切ってくれというようなことを本来は全体概要事業評価の結果ということで、全体概要として入れるべきだという気がしたが、ただ、数字的な武器がないから何にも言えない。先ほどのこの大綱実施計画報告書でも冒頭のところで、100%超えた云々っていうのが出ていたが。

○総務課係長：はい。

○委員：大変厳しいということであるが、それに対して今動こうとしているワーキンググループに対して、行政改革推進委員としてそこまで言えるのであれば、早急に令和3年までにやってくれということを、本来ならばこの委員会はやらなきゃいけないのではないかという気がする。それがないというのは、よくないと思う。わかった以上は。さっきまで知らなかったから。私としてはさっき言ったように、期間と目標を決めてほしい。

○総務課係長：まず、言っていると思う。そして、コメントを入れるとしたら大綱の報告書である。大綱実施計画の取組項目の中に、経常収支比率を94.6にするという取組項目があるのに満たしてない。だからここでこの評価の中で厳しく書くという判断である。

○委員：それがいい。

○総務課係長：4年間目標は94.6になっているのに、改善もな

く、毎年あがってきてこんな状態になった。

○委員：ここに1項目入れてでも言うべきである。

○総務課係長：4ページ、取り組み番号34の進捗は30%としたが、目標94.6というのに対して悪化している。だから急務であるなど書いているし、ほかには1ページ目の中に別途盛り込む方法もあると思う。

○委員：審議の結果というよりもお題目で入れたほうがいい。私の気持ちで言えば赤字脱出をするロードマップってのを目標2年、3年で作って、確実に脱却してほしいぐらいの気持ちである。持続可能な云々であるこのとおりであるが、たぶんこれでは具体的ではない。それより赤字脱出をするロードマップを描いてくださいと。今年これだけ落として、次にこれだけ落としてという。たぶんそれも目標である。中長期のロードマップではなくて、もう2、3年、数年以内で脱却できるロードマップ。

○総務課係長：今度の3月議会までにはそれを示す予定である。

○委員：それを示すことを書いてほしい。

○総務課係長：はい。そういった文言を書き加える。そして事業評価報告書の②と③の文を修正する。

令和元年度事業評価報告書（別冊コメント一覧表案）について

○総務課係長：緊急的な杵築市行財政改革の取組検討が始まり、危機的な財政状況への対策として再度、二次評価（総務課長、政策推進課長評価）を行ったため、その再評価結果

を踏まえた委員会のコメントに修正している。事前に送付した案のとおり、第2回、第4回委員会での事業評価の意見を尊重しつつ、一部、書き足している。資料の朱書きしている部分に変更箇所であり、修正内容がいかどうか確認して、意見をいただきたい。

1 番 新たなステージ入ったがん検診の総合支援事業

- 総務課係長：全県下でがん検診が受けられるのがメリットであるというものである。ただ、市内でも同じような事業があるため、市の厳しい財政を考慮すれば利用者の利便性は低下するものの、補完する事業があるから一時事業見合わせ、事業の精査等を行うべきであるという風に書いている。そして評価は継続から内容見直しに変更した。コメントは変わっていない。

2 番 児童等自立支援就農チャレンジ事業、3 番 生きがい活動支援通所事業

- 総務課係長：縮小に変更。

4 番 定住促進事業の推進、5 番 移住体験事業

- 総務課係長：定住促進も認めるが、補助金交付だから厳しい状況のため縮小とした。事業はしてもいいが、上限を設けるべきというイメージである。また、市の事業費は削減に努めるべきであるというところを書き足した。

8番 世界農業遺産活用推進事業

- 総務課係長：県への負担金はどうしてもあるが、米のブランドは継続という評価をしたが、効果が見えないから一時見合わせというのを書き足した。
- 委員：これ七島いはもう廃止だったか。
- 総務課係長：七島いはもう廃止すると思う。

9番 杵築ブランド強化推進事業

- 総務課係長：縮小に変更し、また地域商社はアドバイザーに頼らず自立を目指すべきであるというのを加えた。

10番 守江湾干潟再生事業

- 総務課係長：一時休止など縮小を検討することを加えた。

11番 栽培漁業促進事業

- 総務課係長：縮小に変更した。財政状況が厳しいので一時休止。
委員さんの評価は生かしながらそういう表現を加えた。

12番 創業支援事業

- 総務課係長：縮小。補助金交付事業であり、厳しい状況のため上限を設ける。これも同じ発想である。補助金だから上限を設けるべきだと。予算の打ち切りだということもあっていいのではないかということである。

20番 シティマネージャー事業

○総務課係長：内容見直し。財政状況が厳しい中、ほんとに必要な事業がどうか廃止を含めて検討すべきであるということ
でこういった表現を加えた。

22番 学生チャレンジ事業

○総務課係長：縮小。補助金交付だからほかと同じような文言を加
えた。

**26番 こども学習支援、28番 子育て・高齢者世帯リフォーム支援
事業**

○総務課係長：縮小に変えた。

30番 ドローン活用推進事業

○総務課係長：ドローンは、内容見直しに変えて、一時事業見合わ
せ効果等の検証を行うべきであるという表現を加えた。

**34番 杵築城保存活用事業、35番 埋蔵文化財活用事業、36番 杵
築中学校建設予定地文化財発掘調査事業**

○総務課係長：内容見直しで、一時事業見合わせというところを加
えた。

41番 ファミリーサポートセンター事業

- 総務課係長：縮小に変更。
- 総務課係長：ほかはそのままである。変更点は、今までの説明のとおりである。
- 委員：一時事業を見合わせというのと、一時休止というのは違うのか。使い分けているのか。
- 総務課係長：一時休止は、まず廃止と評価をすると、要はずっと廃止の意味であるが、一時やめて、やめたことによって、その事業の効果がマイナスに激しく出てきた、これはやめたことが失敗だったともしわかったならば、再開もあり得る、というのが一時休止など縮小を検討するということである。
- 委員：一時見合わせはどうか。
- 総務課係長：一時見合わせは1回同じようにやめてみて効果を見なさい、一時辞めるもしくは縮小も検討に入れなさいということである。例えば、500万円の補助をしていたなら、250万円で減らしてどうかもやってみてもいいし、やめてもいい。
- 委員：同じだと思う。一時休止である。統一したほうがいい。
- 総務課係長：統一する。
- 委員：例えば、あの稚貝を海にまくのは一時休止とするのか。
- 総務課係長：それは縮小としている。
- 委員：縮小というのは、中止も休止もないのか。やるのはやるから。

- 委員：やっているのを、小さくする。
- 委員：休止と言ったらやめる。一時的に、でも一時。いつか再開するかもしれない。
- 委員：見合わせもふつうは一旦。列車の運行を見合わせていますと言ったら、ストップしている。でもまた再開する。
- 委員：貝は今少し回復してきていると聞いた。だから、休止をしたらもうそのまま育たないかもわからないけど、縮小しながら、効果や予算を見ていく。
- 総務課係長：では一時休止は書かずに、縮小を検討することに絞ったらどうか。例えば10番、11番は一時休止などを削除する。
- 委員：縮小を検討する。
- 総務課係長：はい。
- 委員：そっちのほうがいい。
- 総務課係長：変えたいと思う。4番も変えて統一する。
- 委員：それと私が気になったのは、厳しくするのであれば、51番コミュニティセンター整備事業とか結構お金がかかっている。
- 委員：ガイドラインを設けることと、本来なら、今この状況だから建設についてもしばらく控えるとかできないのか。設計費とかお金を払っているのか。
- 総務課係長：設計費は、まだである。今計画段階である。
- 委員：それとこの前の話だと37番小熊山古墳・御塔山古墳と38番国指定史跡保存活用事業は、もういいんじゃない

かと。34、35、36も事業見合わせである。そこま
でいくなら51と52とか、37、38とかも。45の
埋蔵文化財発掘調査事業は必要なものか。

○総務課係長：はい。45は、市民生活に直結している。家を建て
るときに必ず調査をしないといけないので、内容を見直
してということである。

○総務課長：51と52は、設計に一部入っている。それで中の作
りをどうするかという検討をしている。

○委員：これは内容見直しまで入ってないのか。

○総務課長：入ってない。実はこれは国の補助金を取りに行ってい
たので、たぶんそこを考慮している。もらえるように今
申請していて、補助金がつけば、半分以上つく。ただ、
今そういうこと言っている場合じゃないので、半分はい
るわけで、1億円であれば5,000万円いる。

○委員：そういうことか。補助金は欲しいことは欲しい。

○総務課係長：はい。例えば内容見直しの仕方によっては、補助金
の対象事業から該当しなくなるかもしれない。結局全体
の事業費は高いが、半分補助があったほうが市の負担は
少ないということもありえる。

○委員：そうか。

○委員：なるほど、難しい。

○委員：でも、ものすごく立派なものができるような気がする。そ
んなお金ついたら、これ誰が使うのか。ちなみに杵築駅
の裏にもなんかあると思うが。

- 総務課長：八坂地区公民館は耐震の関係で、もう使いづらいのものでということで、用地を求めてあそこに建っている。
- 委員：あれもなんか立派なものできているが、同じものができるのか。
- 総務課長：違う。住民自治協議会という、組織を構えてそこでいろんな事業をする。
- 委員：地区公民館ではないのか。
- 総務課長：地区公民館ではない。コミュニティセンターである。地域のいろんな課題を、地域の人が組織を作って、解決するための拠点づくりの機関である。地域のいろんな人が集まって、いろんな政策をしたり実施する拠点である。この拠点にはコミュニティセンター長というのを配置する予定である。
- 委員：なるほど。ちょっと認識が変わった。公民館のつもりで思っていた。
- 総務課長：方針的には公民館を廃止して、これに置き換えてより有効な組織にするという拠点になっている。
- 委員：そこに市の職員が入るのか。
- 総務課長：市の職員は、正職員は入らない。
- 委員：市の職員じゃなくて、そのコミュニティセンター長というのは。
- 総務課長：センター長は市の職員でない者。その雇用して、会計年度任用職員とか再任用とか。
- 委員：それで国の補助金が出るわけなのか。

○総務課長：そうである。地域づくりの一環で。向野地区で言うと、トラック市をしたりとか、いろんなイベントも地域の方が潤うようなことをしようとかいうように、物を売ってもいい。

○委員：地域の方がおまんじゅうとか売ったりしている。

○委員：考え直す。要は過疎化が進んでいる社会をどうやってつないでいくかというコミュニティセンター。それで国が補助金を出す。わかった。

○総務課係長：本日意見をいただいた部分を変更し、報告書を完成させる。このあと休憩をはさみ、市長に結果を報告するが、委員の皆さんで都合がよければ市長室に行きたいと考えている。

(休憩後、市長に報告書を提出)

(3) その他

○総務課長：以上で第5回の杵築市行政改革推進委員会を閉会する。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。